



2009年度
区移管から10年節目の年
組合の足腰強く



炎天下、メーデーで頑張る文京の仲間達

新年度に入り1ヶ月余りが過ぎたが、新たな年度を私達はどうか迎えるべきなのだろうか。

区移管以降、各区では現業職員の退職者不補充方針による委託化等が進み、清掃に従事する正規職員はこの9年間で激減

した。文京区でも6年間新規採用がされず、支部組合員は移管前の半分ほどになってしまっている。また、現業賃金に対する厳しい風は止むことを知らず、昨年来の金融不況により、いっそう風は強まっている。これまで

任長	任部	掃合部
委員	責伝	清組支
行集	京働	京
行集	京働	京
発執	東芳	文
編教	東芳	文
2009年05月15日 第72号		

でも、特殊勤務手当を巡る闘いや業務職給料表改善の闘い等において常に守勢に回らざるを得ず、後退を余儀なくされる状況が続いている。労働組

メーデー
大不況下
団結の場

信濃町駅下車後、明治公園に向かうが、プラカードやゼッケン着用の人々が少なく、シュプレヒコールも聞こえない。何でこんなに盛り上がりがないのかと感じた。7、8年前には歩道を通れない程、人が溢れていた。それに対し今回のメーデーは、100年に1度の大不況の中、リストラや首切り等で多くの人が職を奪われ、組合員が減ってしまったのかと思った。

明治公園に着くと、代々木会場に向けデモ行進

合全体の力が低下し、最近では官公労に絞った攻撃がかけられているなかで、一気にこうした現状を打破することは極めて困難なことである。しかし、こうした時こそ、そこに労働組合が存在し、組織が存在することが、労働条件の改善に歯止めをかけ、将来の展望につながるということであらためて認識すること

が必要であると思う。この4月で区移管から10年目に入った09年度を、一つの節目とし、あらためて東京清掃労働組合の存在意義を組合員一人ひとりが認識し組合の足腰を強くするための運動を本部、支部が一丸となって取り組むことが、今求められているのではないだろうか。

我が家には来月で8歳になるわんこがいます。最初は所有物扱いのペットという概念でしたが、人間の生活サイクルに対応でき、人間との相互関係の中で生活しています。

▼特にわんこの場合は、はっきりとした主従関係を好む習性ですから、今では生活していく上で、より密接な関係を持つているので、家族の一員としてのコンパニオンアニマル(伴侶動物)という概念です。▼わんこは可愛いですねえ。



が始まった。都心の道路を大手を振って歩けるのはメーデーの時くらいなので、労働者の血が騒いだ。会場に着いたら参加者5万人とのこと、沢山の仲間を見て、これぞメーデーだと強く思った。

NGO、NPOの活動紹介や、派遣労働者・失

業者等の就職相談も行われていた。家族連れも参加しやすい内容だった。若い人が少ない等、課題が残るが、100年に1度の不況と言われる今だからこそ、団結の場としてメーデーが重要なのではないかと思った。

るメーデーですが、本来、労働者が結集し権利を主張し、確認する大切な場です。

労働者にとって厳しい情勢の今、「闘うメーデー」を確立し、真摯に取り組む必要があるのではないのでしょうか?

闘うメーデーへ

5月1日、日比谷メーデーに参加してきました。今回は警備清掃要員という事で、式典の間は野音の出入口に立っていることが多く、式典をほとんど見ることが出来ませんでした。かわりに見

【斉藤実副委員長】

【組織部長・松澤貴広】